

クリークの魅力発信

この広報誌は、筑後川下流右岸農地防災事業所の若手職員が広報活動の一環として作成しています。詳細は[こちら](#)。



「クリーク」って一体なに？？

筑後・佐賀平野等に広がるこの地域独特の農業用の水路です。

貯水機能や用排水機能を有しており、地域農業においてため池や水路の役割を果たしています。



豆知識① クリークの由来（諸説あり）

クリークは古くから「ほり」といわれてきたが、昭和のはじめ頃から、その景観が揚子江のデルタ地帯のクリークに似ていたことから、いつしかクリークといわれるようになる。



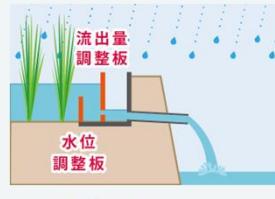
豆知識② 「江」と「川」の違い

江湖や江は、はっきりした源流がなく、潮の満ち引きの影響をうけ、上下流がわかりにくくなっています。佐賀江（川）、八田江（川）などがあります。山地が源流の嘉瀬川や城原川などの河川とは区別されます。



豆知識③ 「田んぼダム」について紹介！！

「田んぼダム」は、豪雨時の場合でも排水路・河川の水位上昇を抑え、溢れる水の量や範囲を抑制が可能！



地域の営農（米、小麦、大豆等）作物への被害軽減にも繋がる！



★クリーク×地元

クリークの水に関わるお祭りや行事が各地に！！！



伝統行事やお祭りを通じて、人々が集う場となっています。

「ごみくい」
佐賀県の伝統的な農作業で、クリークの底にたまつた泥やゴミを取り除く作業です。



城原川ハンギーまつり



ハンギーまつりに当事業所からも2チーム（チーム名：クリーク守り隊）参加しました！

会場のテントにて、事業概要等を記載したパネルも出展し、事業PRも行いました！

今後も、地域とのつながりを深めると共に、本事業の重要性を周知していきたいと思います。

★クリークの役割について

①農業用水

ポンプで水をくみ上げ、田んぼに水をかける

お米や野菜を育てるために水をためておく



作物を育てるための水を、クリークからポンプでくみ上げて、作物にかけています。安心して農業ができるようになりました。



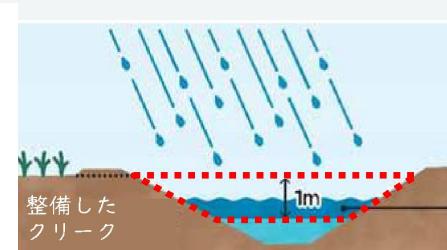
②洪水対策（貯水機能）

大雨で洪水が起こらないように、雨水を貯めておく

大雨のとき、水をためてこう水をふせぐ



雨がふったとき、川の水があふれてこう水が起こらないように、雨水をいつたんクリークにためて、あとで川や海へと流します。



③消化活動時の水源

火事などにそなえて、水をためておく



もしも火事が発生したときには、近くにあるクリークから水をくみ上げて放すい水し、火を消すための消防活動を行います。

④生き物たちの住処

魚や貝、水草などの生き物を育む



クリークの中や周囲には、さまざまな生き物がいます。また、水やえさを求めて鳥や虫もきます。生き物の命のみなもとのことです。

